

06. CWTW-Proの電鍵を接続した送信練習機能

CWTW-Proでは、実際に電鍵キーをCOMポートにRS-232Cに接続した送信打鍵練習ができる。電鍵を接続しない場合は、キーボードの[SHIFT]や[CTRL]キーで代用できる。

COMポートの準備

デスクトップパソコンなどでCOMポートが装備されていれば、そのコネクタを利用する。ノートパソコンなどではCOMポートが装備されていない場合が多いのでUSB-シリアル変換ケーブルを利用する。

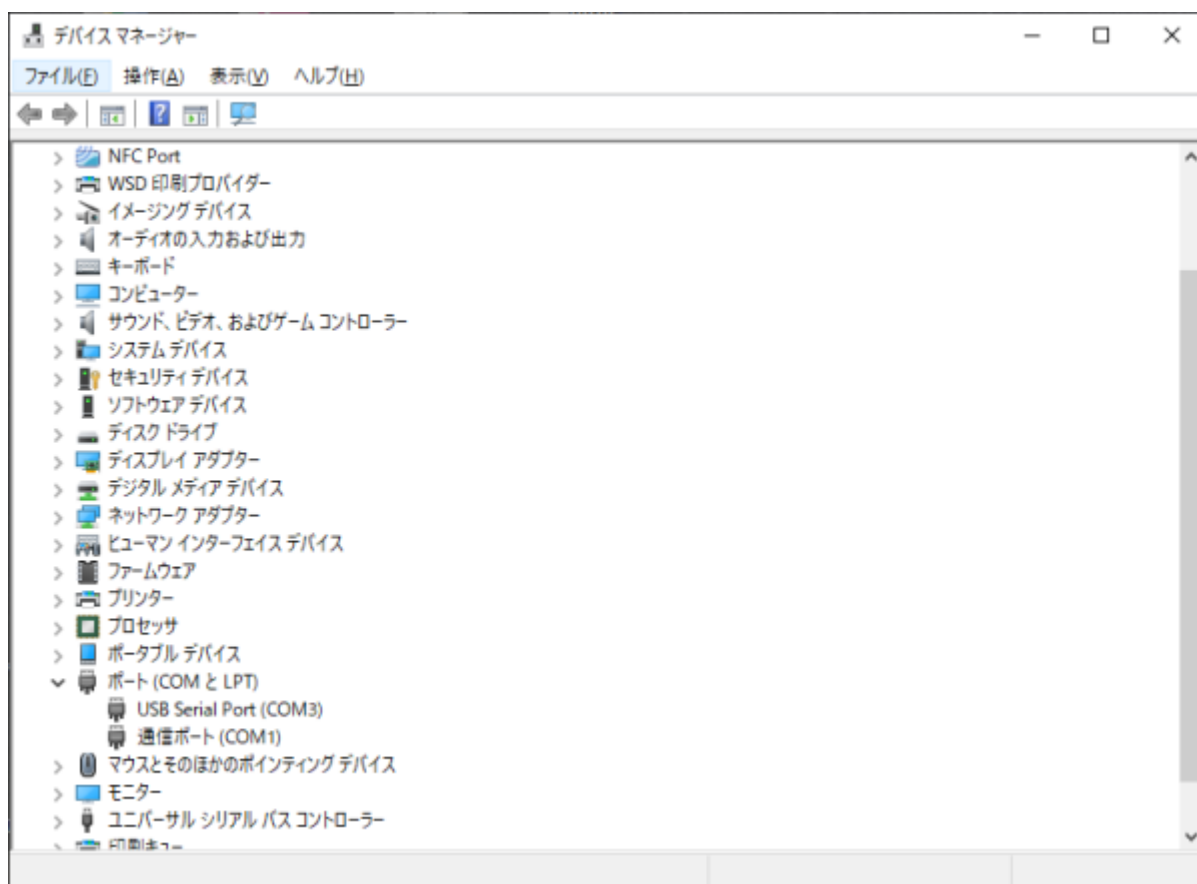
私が試したUSB-シリアル変換ケーブルは、iBUFFALOの「[BSUSRC0610BS](#)」を使った。下記URL記事でも紹介。

[Windows10 FTDIチップ搭載のUSBシリアル通信を使う](#)



この変換ケーブルにはFTDI製チップが使われているらしく、広く使われているICなのでWindows10では標準で使える。

変換ケーブルをパソコンに接続してCOMポート番号を確認する。



COM3 に割り当てられた。

電鍵との接続ケーブルを作成

電鍵は、縦振キー／エレキーのどちらでも利用できる。
9ピンのD-SUBコネクタ(雌側)を入手し下記の配線をする。

縦振キー

4ピン(DTR)と6ピン(DSR)に電線をハンダ付けして、その2本の線に電鍵を接続する。

エレキー

4ピン(DTR)を共通端子に、6ピン(DSR)を短点端子に、8ピン(CTS)を長点端子に電線をハンダ付けして、その3本の線に電鍵を接続する。

エレキーを接続した例

【写真：工事中】

CWTW-Proで送信練習

CWTW-Proの環境設定で、前記で確認したCOMポート番号と、使用する電鍵の種類を設定しておく。
CWTW-Proを起動し、練習モードで [送信] を選んで [スタート] する。

【画面：工事中】

電鍵の打鍵パターンを、CWTW-Proが自動認識し解釈して、画面に文字を表示する。打鍵した文字の確認練習ができる。

From:

<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/> - 新石器Wiki

Permanent link:

<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/develop/cwtw-pro/cwtw-pro-send-mode?rev=1590985464>

Last update: 2020/06/01 13:24

